

熊退教協 主な取り組み

(1) 教え子を再び戦場に送らない

十五年以上に及ぶ長い戦争を起こした日本は、おびただしい数の人々を殺傷した反省の上に立ち、二度と武力による威嚇や行使をしないと現憲法で宣言しました。熊退教協は結成以来、「教え子を再び戦場に送らない」という基本理念のもと、日本を「戦争をする国」にさせないための取り組みを活動の中核に据えてきました。

『逝いて還らぬ教え見よ／私の手は血まみれだ／君をくびったその綱の／端を私も持っていた／しかも人の子の師の名において／嗚呼！／お互いにだまされていた』の言訳が／なんでできよう／慚愧、悔恨、懺悔を重ねても／それが何の償いになろう／逝った君はもう還らない／今ぞ私は汚濁の手をすすぎ／涙をはらって君の墓標に誓う／「繰り返さぬぞ絶対に！」

竹本源治「戦死せる教え見よ」

私たちの活動の原点であるこの誓いを、何度も読み返しましょう。過ちを繰り返さない



宇城退教 (いろいろ会)

ことを決意し、行動していきましょう。「新たな戦前」にさせないために。



熊本市退教 (秋の集い)

(2) 福祉や社会保障の充実をめざす

熊退教協は会則の第四条で、「退職後の生活保障のため、年金・医療・福祉などの社会保障制度の改善と充実を図る」ことを明記し、活動の柱のひとつに据えてきました。

具体的には日退教と共に、年金改善の要請書発送、医療や介護保険制度の充実を求める署名活動、全国規模での諸集会開催、関係省庁への要請等々を行ってきています。また、友好の会などの場で、年金や医療、介護保険制度について学び合う機会を設けています。しかし軍事大国をめざす政権は、軍備費増額のために社会保障費を削減する、という動きを強めています。例えば、

- 国民健康保険料や介護保険料を引き上げる
- 年金の支給開始年齢を遅らせる

(3) 友好の会の開催

私たちが熊退教協の活動の中で一番の楽しみが「友好の会」です。

熊退教協が創立された20年後の一九九三年、『地区退教協の枠を越え、幅広く参加しながら親睦や交流を深める場を』という思いのもと、第一回友好の会が開催されました。交流と親睦を掲げ、各地区持ち回りで、現在六地区で責任もって私たちを迎えていただいています。

内容は、大会行事・講演会等と続いて、最後の親睦会で大いに盛り上がりです。最近では色々な生演奏も多くなりました。以前は各地区の出し物も多く、みんなが酔っぱらわない内にやりたいという地区が多くて、順番付けが大変でした。久しぶりに会う「仲間」と生存確認をし、旧交を温めることは、退教協だからこそ出来る素晴らしい催しです。これからも永く続くことを願っています。



鹿本退教 (友好の会・山鹿大会)

(4) 十一地区退教協間の連携と交流

熊退教協は、十一の地区退教協で構成されています。

各地区では、「総会・レクレーション・交流会・学習会・忘年会・便りの発行・会員宅訪問・新会員歓迎会」等、それぞれ創意をこらした取り組みが行われています。

こうした各地区での活動内容について情報交換を行う場として、「地区会長・女性代表者会」と「地区事務局長会」を毎年開催しています。方針や予算などを決定する「定期大会」も、できるだけ地区間の交流の場になるよう努めています。

熊退教協では、全地区会員の方々のつながりをめざして、年三回「熊退教協ニュース」を発行しています。また、多くの会員の親睦と交流の場として、「友好の会」を毎年催しています。

県では、諸課題の改善をめざし、毎月第一水曜日に「役員・企画委員会合同会」を開いています。その内容については、「事務局だより」として各地区へお届けしております。

(5) 全国の仲間との連携

私たちが熊退教協は、現在全国62団体の仲間が集う日本退職教職員協議会(日退教)に加盟し、他の都道府県退教協と共に全国的な課題について連携して取り組んでいます。

日退教の会則のポイントは

退職後の充実した豊かな生活と確かな社会を将来に引き継ぐために、特に次のようなことに取り組む。

- 会員間の親睦と交流
- 年金・医療・介護等の社会保障の充実
- 民主教育や平和な社会の実現

それらの活動の基調は

☆「貧困と孤立」の社会を変えるために、退職者のつながりを拡大し、連携して運動に取り組む。

(6) 県内の仲間との連携

私たちは、県内の十五産別の仲間たちと横につながり、熊本県退職者連合(熊退連)を結成し活動しています。「生き生きと安心して暮らせる社会にする」ために、また「経済優先から生活優先の政治に変える」ために、



八代退教 (仲間と秋を満喫)

☆日本退職者連合と共に、社会保障制度・政策の要求実現をめざす。

☆教育への不当な支配介入を許さず、民主教育の確立をめざす日教組教育運動に、地域で共に取り組む。

☆ジェンダー平等の取り組みを積極的にすすめる。各種運動・意思決定機関における女性参画率を高める。

☆憲法改悪に反対し、当たり前前に生きることのできる社会を作るため、私たちの代弁者の当選をめざす。

これらの目的を達成するために、毎年「全国高齢者集会・五者合同学習会・組織運動交流集会・ジェンダー平等学習会・九州プロジェクト研修会」等を開催しています。テーマは何れも「平和・人権・福祉・環境・文化」等です。熊退教協も代表が参加し、全国の仲間との連携・交流を深めています。